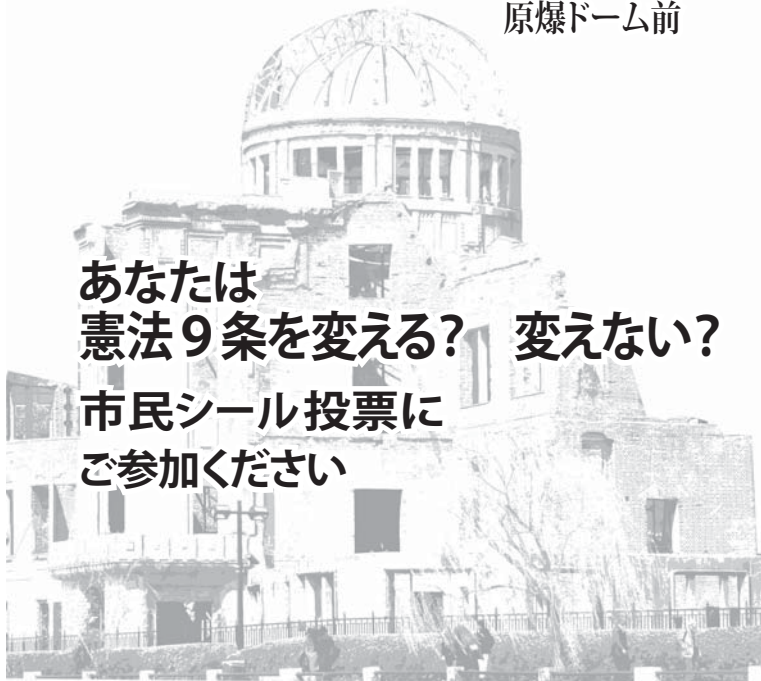


憲法記念日リレートーク & 市民シール投票

5月3日(火・祝) 10:30~12:30

原爆ドーム前



**あなたは
憲法9条を変える? 変えない?
市民シール投票に
ご参加ください**

5月3日の憲法記念日にリレートークを行い、ストップ改憲、核のない平和な社会をめざすヒロシマの想いを訴えます。広島のお祭り、フラワーフェスティバルを楽しむ人々もきっと「9条を変えないシール」をたくさん貼っていくことでしょう。迷っている人がいたら語りかけましょう。軍備や力でなく、言葉や信頼の大切さは憲法の中にあります。

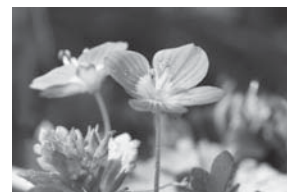
応援に駆け付けてください。



写真提供 戸村良人さん

大地震、津波被害を受けられた皆さん、原発事故を心配されている皆さん、つながりのある皆さん、元気でいて下さるでしょうか?いつもはあんなに美しい自然。本当にきびしいものです。怖れていた原発事故。放射性物質、放射線が飛び散り、食物連鎖の危険性…不安ですね。住民の皆さん、小さな子どもたち、妊婦さん、そして作業員など原発事故に携わる人々への被ばくが心配です。今こそ広島が「もう被ばく者を作るな」と強く強く訴えなければ。

今回も自衛隊は災害派遣に出動しています。でも強大な武器は不要です。多くの国々が支援を名乗り出しています。中国は、救済物資の提供、医療救援チーム派遣、ロシアは原油や石炭、ガスの供給を約束し、軍備も軍事演習も不要です。必要なことは、私たちが感謝し、信頼し、政府がこの友好な関係をそこなわない外交努力をしていくことです。子どもたちが楽しみにしていたことを自粛してやめたりしないでほしい。被災者が必要なこと、復旧のためにお金を使ってほしい。原子力開発、在日米軍や自衛隊の軍事強化こそ、今すべてストップするよう、私たちの声を政府に届けましょう。



写真提供 内海隆男さん

会報69号	目次
1	5・3憲法記念日リレートーク
2	巻頭言 大地震・大津波と原爆被害 岡本三夫
3	第三の開国は誤り 横原由紀夫
4~5	電磁波問題から上関原発を考える 池松綾子
6~7	「予防原則」思想と「ISO26000」国際規格(荻野晃也博士記)
6	日出生台海兵隊実弾訓練抗議集会 宮崎優子
9	第14回許すな!憲法改悪全国交流集会 藤井純子
10~11	在日米軍再編に揺れる岩国 田村順玄
12	世界社会フォーラム・ダカール報告 渡田正弘
13	上関原発の準備工事の強行だけが人がでた 政木和美
14~15	総会報告 佐々木孝 藤井純子
16	お知らせ タイトル、呼びかけ人の募集

【巻頭言】

大地震・大津波と原爆被害

岡本三夫(第九条の会ヒロシマ・世話人代表)

今回の東北・関東大地震と大津波のTV映像は何回も見た。巨大な大津波に吞まれて行く町々、家々の映像に私は戦慄を覚えた。「待たなし」に襲ってくる巨大な荒波、家や車や瓦礫を「先頭に」して突進してくる猛烈な勢いの怒涛には、見ているだけでも、恐怖を覚えた。付近の坂道を歩きながら、高波が背後から襲ってきそうな気がして、何度も振り返ったほどだ。戦争体験者は米軍の空爆や艦砲射撃の恐怖を思い出しただろう。

しかし、1年も2年も経って、あの恐怖の光景を、TV映像ではなく、言葉で体験者から聞いた場合、あのリアリティは私たちにどう迫ってくるだろうか。

それで思ったのが、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下の実相だった。原爆の実相は主に「言葉」によって語られてきた。勿論、ヒバクの実相を伝える写真もある。広島と長崎の原爆資料館にはヒバクシャの蠟人形もあって、生々しい被爆の実相を伝えている。私たちは、これらの原爆「資料」や言葉によって原爆の恐ろしさをイメージし、想像し、「追体験」してきた。この「追体験」はTV映像で目撃した津波被害と比べて「迫真力」があるだろうか。正直なところ、答えは「ノー」である。残念ながら、人間の「想像力」は貧しく、TV映像の「迫真力」の比ではない。

私は思った。「もし」ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下がTVによって映像記録されていたならば、その迫真力はいかばかりのものだったろうか、と。

原爆投下の瞬間、爆風は爆心地では秒速440メートル、爆発点は摂氏百万度の温度となり、直径約280メートルの火球が発生、数十万気圧という超高压状態が生じた。巨大な台風でも瞬間風速60メートルを超えるものはなく、鉄の溶ける温度は摂氏2千度だから、原爆の数値は常識や想像を超えた破壊力の凄まじさを示す。くわえて、莫大な量の放射線が放出されて、市民を襲った。爆発直後に4グレイ(30ラド)以上の全身照射を受けた人はそのほとんどが死亡した。生き残った被爆者にも放射線による後遺症が現れ、死亡したり、70数年後の現在でも原爆症で苦しんでいる人が少なくない。

と、ここまで書けば、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下による惨状が言語を絶するものであり、大地震・大津波による惨状を凌駕する悲劇であったことは誰の眼にも明らかだろう。さらに私は米国で起きたスリーマイル島の原発事故やソ連邦のチェルノブイリで起きた大型原発事故も思い出す。原発事故による放射能被害も原爆投下による放射能被害に決して劣らない。しかも、これらの原子力関連の悲劇は数十万人規模の犠牲者である。数千人、数万人規模とはケタが違うのだ。

大地震・大津波は自然災害であり、予防するにも限界がある。しかし、原爆や原発で発生する悲劇は人為的なものであり、予防は100%可能である。核兵器を廃絶し、原発産業をやめて水力、火力、風力、太陽熱などをより工夫して開発した自然エネルギーに鞍替えすれば解決するのである。そのような叡智が国民的な共有財産となり、近視眼的な科学技術への信頼に打ち勝つことを熱望する。

2011年3月14日



第三の開国は誤り —いまこそ市民の行動を！

横原由紀夫

◆ はじめに —日本の政治・経済・社会・文化の大転換を—

3.11東北関東大地震・大津波、それに続く福島第一原発（東京電力）の原発災害にショックを受け、一週間何も書く気にならなかった。私は、1973年以来、島根原発公開ヒアリング阻止闘争、豊北原発計画反対運動、上関原発建設反対運動、もんじゅ・・・と、“核と人類は共存できない（森瀧市郎氏）”との理念を基本に“核兵器・原発”反対運動に関わってきた。しかし、今回の福島原発災害をみて、果たして自分には免罪符があるのだろうか？と、考え込んだ。自分は安全圏にしながら、原発推進派（政治家、官僚、企業、学者、自治体、実質的に容認してきた革新政党と関係組織、積極的であれ消極的であれ賛成したマスコミ・市民など）を批判し抗議声明を出していれば免罪されるのか・・・と。

原発を支えるために働かされてきた多数の被曝労働者の存在、そして、今、放射能を閉じ込めるために“高レベル放射線被曝”を覚悟して作業している人達を思うとき、言葉を失う。

3.11を契機に、日本は政治・経済・社会の有り様と、“我欲”に走る人間が増えている文化の有り様を大転換しなければならない。

◆ 第三の開国・TPP参加とは

菅首相は、“環太平洋連携協定”（輸入品にかかる関税の原則撤廃を目指す協定：TPP）に参加することが、日本を開かれた国にすることだと称して第三の開国と宣言している。関税ゼロの世界＜自由貿易＞体制を目指すというのである。この要求は、元々、米国が求めてきたものである（新自由主義・市場原理主義の世界化）。新自由主義は、「企業の自由が最大限に保証されることを求める。そのためにすべての資源、生産要素を私有化し、すべてのものを市場を通じて取引する制度を作る」という考え方である。市場原理主義は、新自由主義の考え方を極限にまで押し進め「儲けるためには何をやってもいい」、法律や制度を「改革」して“儲ける機会”を拡大する、という考え方である（参考：宇沢弘文東大名誉教授・TPP反対の大義＝農文協ブックレット）。

TPPでは農業問題だけが焦点とされるが、目指しているものは社会の有り様すべてにわたっている。前原外相（当時）は、“1次産業のGDP比は1.5%、残りの98.5%が犠牲になっている”と発言した（TPP積極推進派で米国従属派の代表）。要するに“輸出産業”を最優遇し、足りないものは輸入すればよい、という考え方である（松下政経塾）。

◆ TPP参加で国民生活が向上するか

菅首相や前原前外相などの言い分を聞いてTPPに参加すれば、①企業の海外移転が止まり国内雇用が増えるのか、②輸出産業が海外で稼いだカネが国民に回って、みんなを豊かにするのか、③食料はカネさえ出せば、いつまでも、いくらでも、永遠に買い続けられるのか（11.1.30中国新聞、農業・作家山下惣一氏の意見より）。

答えは「否」である。自民党政権時代（自公政権も）から“輸出産業”を優遇し円高回避政策を取り続けてきたが、その結果が日本の現状である。市場原理主義（規制緩和と競争拡大）政策を（米国の求めに従い）採用した結果、貧困化を招き自殺者の増加、我欲に走る人・組織を増加させ社会の荒廃を招いたのである。“お金がないから病院に行けない、食べるものもなく衰弱（死）、リストラ失業で家計が破綻・・・”これが現実である。“自由貿易体制”は不平等を拡大し、“物が豊かになって心が貧しくなる”社会を招いた。

国家を形成する基盤は「衣食住」の安定をはかることであり、政府には“国民に最低限度の文化的生活を保障する”義務がある。自動車や電気製品を海外で売ってそのお金で食料を海外から買えばよい、という理論は自分勝手な理屈である（成立しない）。食料自給率100%を目標にして自給率向上政策を実行することが政府の役割である（食糧安保、食の安全確保）。TPP参加で食料自給率は40%から14%に下がるとの試算がある。

◆ 輸出大企業を優遇して国民は

輸出産業が海外に出るのは、①土地など資産が安い、②労働力を安く買える、③税金面等で優遇される・・・という利点があるから、海外進出する（発展途上国を搾取）。経団連会長は、春闘（今や死闘）を前にして、“海外で稼いだ金で賃上げは出来ない。投資家の配当と内部留保が優先”と断言している。要するに、企業は儲けても国民は豊かにならないのである。

食料はカネさえ出せば、いつまでも、いくらでも、海外から買い続けられるのか？答えは否である。今、国際社会では、食料高騰・資源高騰が起きている。将来の食料危機、資源需要の増大を見込んで“投機マネー”が動いているのが主たる要因であるが、結局自由貿易体制は国力ある国が勝ち、開発途上国は搾取され格差が拡大するのである（博打と同じで、勝つ者がいれば負ける者がいる）。“経済は人間のために動いてはいない（我欲、利己主義で）”のである。字数に制限があり多くを述べることは出来ないが、TPP参加は第1次産業を破壊する可能性大である。自由市場と自由貿易体制は、関税ゼロ原則を社会全体に適用するものであり、農林水産業、医療制度、労働市場、地域社会（地産地消）や様々な社会資本にまで影響が及ぶことになる（水や大気まで市場取引に引き込む新自由主義）。米国は、TPP体制を成立させなければ、経済体制が崩壊する危機に直面している（ドル体制崩壊の危機）。そのため“日本市場”を狙い撃ち（全面開放）しなければならないのである。ちなみに、韓国は“実質的な効果が分からない”と慎重である。中国は枠外となっている。なぜなら、中国の採っている政策「通貨政策、土地所有の禁止、物価の統制など」は、TPPが求める規定に反しているからである（参考：TPPが日本を壊す、廣宮孝信著、扶桑社新書）。米国の言い分だけを聞くのはそろそろ止めよう。

◆ むすび とにかく行動が必要

日本人は、“いつまでも、どこまでも”米国に服従しなければならないのか、を考えるとときである。自国民の利益を無視してTPP参加（米国従属）を推進する菅政権に反対して行動を起こすことが重要である。日本は鎖国してはいない。今でも十分に開かれている。今の福島原発災害、TVに出て語る識者・学者・専門家の多くは、高見から物を言い、安全圏から発信している。現場の間人は経験と議論を通して多くのことを知っているが、“人間関係の軋轢、組織と個の軋轢、組織対組織の軋轢”の中で行動している。識者・学者の人達は反核平和運動へも批判・指摘をされるが、それは貴重な提言として受け止めながらも、現場で運動している私たちには“違和感”もときにある。日本社会はマスコミもそうだが、権威主義がはびこっているから「社会的地位、知識（知識馬鹿と言う言葉もあるが）」などの権威に弱い。知識だけあっても駄目である。市民運動も“高見、安全圏”から発信していることを自覚しながら（運動の反省も必要）、祈りではなく行動することが求められる。出来るだけ多くの市民と協力して（38年間運動してきたことを痛切に反省）。

（2011年3月18日 第9条の会ヒロシマ世話人）

原発からの送電線から放射される 電磁波の問題からも、上関原発建設中止を訴える

池松綾子(電磁波問題を考える会)

今、私は長野県上田市に住んでおりますが、2001年までの23年間、広島にいました。1993年に変電所建設問題に直面し、その時はじめて変電所や、高圧線から曝露される電磁波のことを知りました。その変電所は建設されてしまいましたが、変電所(地下)周辺の磁場の値が高くないよう、地元の人たちの要望で「覚書」が交わされ、磁場測定が続けられています。年2回の定期磁場測定には中国電力、子供会、PTA、町内会、教会関係者等が集まり、測定記録を残しています。

中国電力が山口県熊毛郡上関町長島の四代に、原子力発電所計画をしていることが発覚してから、今年で30年になります。1996年、中電は、

町や県などに正式に建設申し入れをしました。そして2001年には計画は、経済産業省の総合資源エネルギー調査会、電源開発分科会で承認され、今は、1号機は2015年、2号機は2018年に運転開始を予定しているようですが、地域住民の反対の声が多く、着工が遅れています。特に予定地の対岸にある祝島の漁民たちは漁業補償金の受け取りを拒んで、ねばり強く反対運動を続け、山口ネットワークや自然を守る会による運動や、それらを支援する人々に

よるさまざまな反対運動が続けられています。映像作家、鎌仲ひとみさんが2010年に完成させた映画「ミツバチの羽音と地球の回転」は全国で自主上映会が行われています。私も長野県上田市の丸子公民館で若い人たちと一緒に観ることができました。

中国電力は2010年から送電線用の鉄塔を立てる調査をはじめようようです。島と海底をたどるルートと陸上のルートのどちらの案をとるか、まだきめてないと言っていますが、陸上ルートの場合、そのルートは上関町の長島から平生町、田布施町、光市、下松市を通り、山口県周南市の鹿野下にある東山口変電所に向うようです。この変電所は既存の新山口幹線であり、広島、岡山、関西方面に供給されることになるでしょう。

電気は空間に対して放射される性質があり、たまたま電線を使うと。電気エネルギーの多くの部分は電線の中に閉じこめることが出来ますが、やはり電線から空間に対していくらかの電気エネルギーが放射されます。電気量は、電圧×電流(W=V×A)という法則から、一定の電気量を送る時、電圧を高くする程、電流が弱くなり、エネルギーの損失が少なくて済みます。そのため

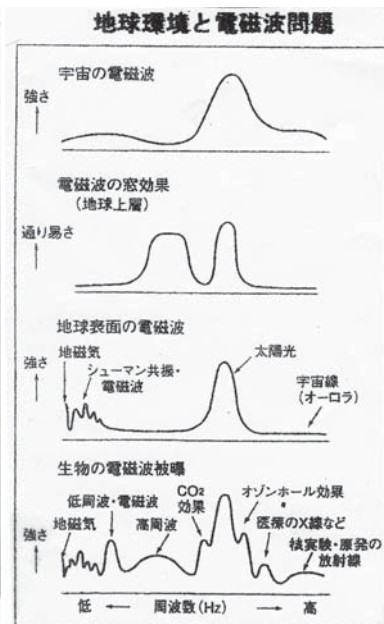
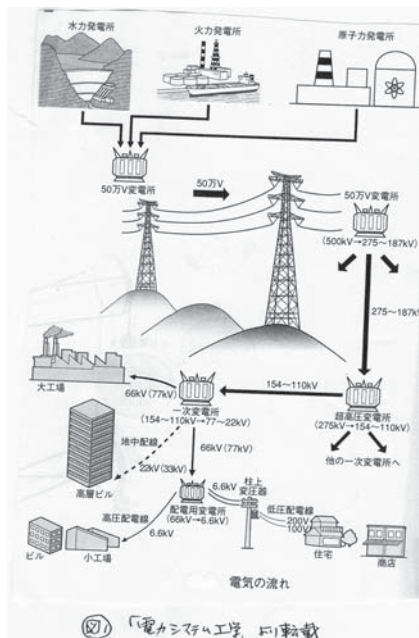
遠くまで送電する時、送電線の電圧はより高圧となってきます。

上関原発がもし稼働するようになったら、1~2万V程度で発電された電力は50万V変電所で昇圧されて、50万V送電が行われるでしょう。 図1

50万V送電が行われる場合、漏洩する電場によって地上で人に危害がおよばないようにするためには、送電線を支える鉄塔の高さを80メートル位にする必要があります。又、鉄塔と鉄塔との距離も考えねばなりません。四代から鹿野下まで32~36kmあるので、80本位の鉄塔が必要でしょう。もしも地盤がもろく、地震や台風によって鉄塔が倒れることにでもなったら大変です。地盤は大丈夫なのでしょう。巨大な鉄塔が立ち並ぶ光景を想像すると、美しい自然が台なしになると思います。

その上送電線のデメリットは、コロナ騒音・コロナ雑音、静電誘導、電磁誘導、イオン流帯電、電磁的両立性、電磁界影響等があげられます。この中で私は電磁界影響(電磁界による生物影響)に関心があります。

電磁波の影響については、1970年代から世界で沢山の研究者が疫学研究を発表していますが、2007年WHOは環境保健(健康)基準を発表しました。極(超)低周波分野(0ヘルツ~100ヘルツ)(日本では商業電力は東日本が50ヘルツ、西日本が60ヘルツ)で小児白血病とEMF(電磁波)の関係を示す疫学調査を支持、予防方法による防護策にも言及し、EMF曝露低減の工夫を勧告しています。『常時平均0.3~0.4マイクロT(3mg~4mg)以上の電磁波にさらされると、小児白血病の発症率が2倍になるとする、日本や米国などでの疫学調査に基づき判断した』としています。又、2010年11月1日から「ISO26000」(社会的責任に関する国際規格)が発行(効)



されました。この規格には「予防原則的対策」が入っており、電波放射についての項目が盛り込まれています。電磁波被曝については「予防原則」思想が大切です。次ページをご覧ください。

(「予防原則」思想と「ISO26000」国際規格 (荻野晃也博士訳))

電磁波とは電場(電界)と磁場(磁界)が同時に存在し、一定の関係を保ちつつ、振幅を繰り返しながら進む波のことをいいます。電場とは電気力をもつ空間のことをいい、磁場とは磁気(磁力)のおよぶ空間のことをいいます。その種類は周波数により違っています。電流が流れば、そこに磁場が出来、磁場が動けば、電流が発生します。電流が多く流れば、磁場は強くなり、磁場の変化が大きければ、流れる電流も多くなります。

私たち人間は100ヘルツ以下の電気信号で動いています。人体では非常に微弱なエネルギーを発電し、それによって生命を維持しているのです。50ヘルツや60ヘルツの電流が流れている送電線からもれる磁場の影響を受けやすいのではないかと私には思えます(図1)人体への影響はさまざまです。

「電磁波はなぜ怖い」より転載

電力周波数 (高圧送電線 家電製品など)	ガン・白血病 中枢神経系の機能障害 心臓血管系の機能障害 異常出産・先天障害など
テレビ (ファミコン VDT)	眼精疲労・白内障 異常出産・先天障害 精神的ストレス 顔面発疹など
携帯電話 電子レンジ (レーザー) 静電気	脳腫瘍(?) 白内障など 白内障 無精子症など ビタミンC破壊 カルシウム分排出など 白内障など 白内障・皮膚ガンなど ガン・白血病など
赤外線・可視光線 紫外線 X線・ガンマ線	

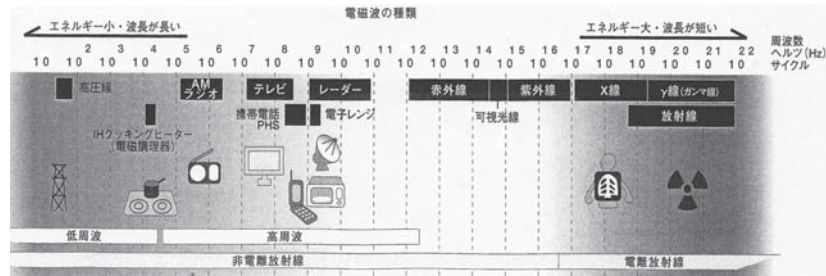
電磁波がもたらす健康障害

そして電磁波に敏感な人は電磁波過敏症を発症してしまいます。その人々は化学物質過敏症をすでに発症している人が多く、二重に苦しむことになります。

2010年大阪で、マーチン・トンデル博士(スエーデン)の講演会がありました。トンデル博士は、スエーデン、ヨテボリ大病院の医師で、EHS(電磁波過敏症)の患者を診察しながら、医学生にEHSの講義をしておられ、スエーデン政府の「電磁波問題に関する厚生委員会」のコンサルタントを務めている方ですが、博士が日本に来て一番驚いたことは、市街地に高圧線が随所に走っていることだそうです。スエーデンでは慢性影響についてWHOの勧告に従って高圧線による磁場が4mg以下になるよう電力会社に協力させているそうです。

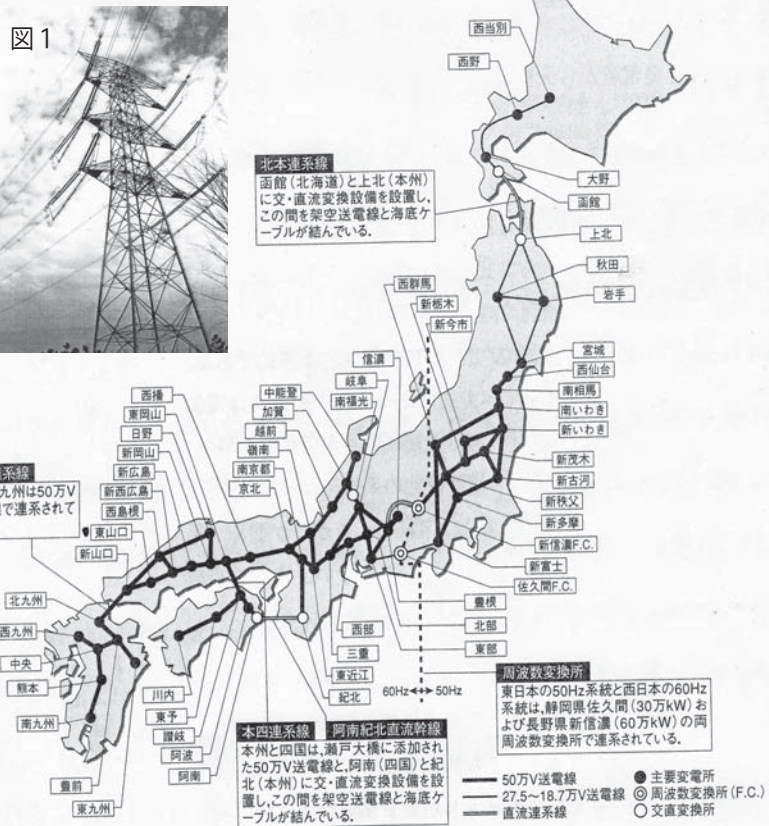
送電線からの被曝量2mG以上の小児ガン増加率
(北欧3ヶ国共同の疫学調査結果:「ノルデック報告」)
(1993年:アールボム博士ら)

実施国名	白血病		中枢神経腫瘍		リンパ腫瘍		ガン合計	
	人数	増加率	人数	増加率	人数	増加率	人数	増加率
スウェーデン	7人	2.7倍	2人	0.7倍	2人	1.3倍	12人	1.1倍
デンマーク	3	1.5	2	1.0	1	5.0	6	1.5
フィンランド	3	1.6	5	2.3	0	0	11	1.5
3ヶ国合計	13	2.1	9	1.5	3	1.0	29	1.3



電線のように、常時漏洩していることが問題です。原発で発電する時、一度稼働を始めたら、点検時以外、昼夜を問わず発電し続けるのですから、ずっと電磁波漏洩し続けます。微量でも長時間の被曝が心配なのです。

私は原発からの送電線から放射される電磁波の問題からも、上関原発建設中止を訴えます。 2011年2月



日本の基幹連系系統

② 「電力システム工学」より転載

参考資料

- 「ガンと電磁波」 荻野晃也著 (技術と人間)
- 「電磁波はなぜ怖いか」 天笠啓祐著 (緑風出版)
- 「高圧線と電磁波公害」 高圧線問題全国ネットワーク編 (緑風出版)
- 「電磁波過敏症」 大久保貞利著 (緑風出版)
- 「高電圧電力工学」 電力中央研究所 (電気書院)
- 「電力システム工学」 佐藤嘉久著 (丸善株式会社)
- 「ピクチャー・インク」 147号 (講談社)
- 「週刊金曜日」 1996年216号
- 「九州/中継塔裁判ニュース」 33号 中継塔問題を考える九州ネットワーク
- 「リニア中央新幹線を考える学習会レジュメ」 リニア市民ネットワーク
- 「国策の行方(上関原発計画20年)」 朝日新聞山口支局編著(南方新社)
- 「国土地理院」地形図 (日本地図センター)
- 「日本地図 2011年版」 (成美堂出版)
- 「上関原発情報ストック」 (インターネット)
- http://stop-kaminoseki.net/ (インターネット)

はじめに

最近になって「ISO26000」のことが少しずつ話題になっています。「ISO26000」は「社会的責任(SR)に関する国際規格で、2010年11月1日から発行(効)しました。「SR」とは「Social Responsibility」のことで、「企業の社会的責任(CSR)を発展させた国際規格が出来たのは、これが初めてです。「ISO 26000」に関心を寄せている市民・住民運動グループは「電磁波問題に関わるグループだけ(?)」のようにも思われますので、「予防原則」思想と関連させながら「国際規格」問題を書くことにしました。

「予防原則」と「電磁波」が国際規格に

「ISO」規格は、EU諸国が中心となって作成している国際規格なのですが、EU以外では日本の企業が好んで利用していることでも有名で、その典型例が「ISO14001」だと思えます。よく企業の入り口に「ISO14001 取得」の看板を見ることがありますが、それは「環境マネジメント・システムに関する国際規格」を獲得していることを示しているわけです。

「ISO26000」は「ガイダンス(手引)国際規格」で、「ISO14001」のように「認証」を受ける必要はありません。それでも正式な国際規格に決まるためには、その「ISO規格」作成に参加してきた世界中のメンバーの投票での賛成多数が必要なのですが、その投票が2010年9月12日まで行われていました。その結果、投票総数全体で「賛成72、反対5、棄権11」の圧倒的多数で採択され、11月1日から発行されることになったというわけです。反対した国は米国とインドなどの5ヶ国でした。米国は「ISO規格」に反対することが多く驚くことは無いのですが、両国の反対理由が、「予防原則に厳しい条件を導入すべき」「手引規格であっても、その内容に基づき将来において認証規格になる可能性がある」でした。

私の関心は、何と言っても「予防原則的アプローチ(対策) Precautionary approach がどうなるか?」でした。ところが、それが入ったのみならず、対象とするべき汚染物などに「電磁波・放射」も含まれたことでした。「大気への放出」「水への放出」などの項目の後に書いてあるその部分を下に訳しておきます。

6.5.3.1 同じように見なし得る別の形の汚染

組織の活動・生産・サービスは、公衆の健康や安寧に悪い影響を与えたり、個人に異なる影響を与えたりするような別の形の汚染の原因になるかもしれない。これらに含まれるのは、ノイズ、匂い、視覚影響、光線汚染、振動、電磁波・放射、放射線、伝染病の媒体(例えば、ウイルスや細菌)、散布したり拡散したりする物からの放射、生物学的に危険なもの(例えば、侵入する種)などです。」

「予防原則」思想の重要な意味

「地球温暖化」問題でも明らかのように、20世紀の人間の営みが生んだ「地球レベルでの環境破壊」に真剣に取り組む為の重要な思想が「予防原則」なのです。地球温暖化も電磁波も、完全に確立した危険性ではないのですが、危険な可能性の高い重要問題として「予防原則」の対象になっているのです。なお、ここでは、precautionaryを「予防原則的」と訳しています。「予防」だけでは意味があいまいで混乱するからです。日本の法律に多用されている「予防」という言葉を「因果関係の明らかな場合の予防である」と、詳細な検討もせずに報告書を作成したのが、「環境政策における予防的方策・予防原則のあり方に関する研究会」(2004年10月に報告書)でした。この研究会の開催日に私は環境省へ出かけ、傍聴を希望したのですが、「秘密の委員会です」といわれて諦めて帰ったことを思い出します。この頃は、予防原則に関して世界保健機関(WHO)や国連などでも激論がたたかわされている最中でしたから、日本としても早急に検討する必要に迫られていたのです。今の菅首相が厚相の時(1996年)に「O-157の原因としてカイワレ大根の販売を停止した」こともありましたが、最近の口蹄疫・対策なども「予防原則的な決定だ」ともいえるからです。そこで、小生の把握している「予防原則」思想と今回の「ISO26000」までの歴史的な流れを、年代順に簡単に紹介することにしました。「電磁波問題が、何故、予防原則・思想と深く関わっているのか」に関する思想的背景を知って頂きたいからです。

「予防原則」思想の歴史的な流れ

①1970年代、バルト海の汚染や森林の酸性化問題などで、ドイツで「予防原則」思想が広がり始めました。20世紀の科学技術の負の面に対する反省が浮上してきたのです。

②1980年代の終わり頃から、「地球温暖化」「オゾン層破壊」「核の冬」などの地球規模での環境問題への関心が高まり、国際会議などで「予防原則」の概念が採択され始めました。

③1992年の「国連環境開発会議」(地球サミット)で採択された「環境と開発に関するリオ宣言」の「第15原則」で広く知られるようになりました。その原則は次の通りです。

「環境を保護するため、各国はその能力に応じて、予防原則的方策(Precautionary approach)を広範囲に適用すべきである。深刻なまたは取り返しのつかない被害の恐れがある場合には、十分な科学的確実性がないことを理由に、環境悪化を防ぐ費用効果の高い対策を先送りしてはならない」

④「産業人会議(BCSD)」の提言と「地球サミット」の結果を受けて、1992年から「環境マネジメント・システムに関する国際規格(ISO14000群)」の策定が開始され、1996年に発行しました。これが、「環境に関する国際規格」の最初でした。品質管理を主目的とする「ISO9000」に関しては、見向きもしなかった日本・企

業でしたが、この「ISO14001」の認証を受けた企業は極めて多く、その数は世界の国々の中でも最多だそうです。

⑤企業活動のグローバル化に従って、CSR が注目を集めるようになってきました。その中で有名になった事件が、1997年の「ナイキ・ショック」でした。東南アジアの工場で子供を働かせていたスポーツ・グッズのナイキ社が消費者団体などの「不買運動」に直面したのです。「社会的責任・投資 (SRI)」の金額も大きくなり「CSR」の重要性が浮上してきたのです。

⑥1998年の「予防原則に関するウイングスブレッド宣言」も、予防原則に関する重要な指摘です。その中から「予防原則」の部分を紹介します。

「ある行為が人間の健康や環境に対する脅威であるときには、その因果関係が科学的に完全に解明されていなくても、予防原則的対策をとらなければならない。予防原則では、立証責任は、市民ではなく、その行為を推進しようとする者が負うべきである。」

⑦1999年のダボス会議での国連・アナン事務総長の提唱をもとにして、「国連グローバル・コンパクト (盟約)」としての「10項目の原則」が2000年に作成されました。現在、欧米を中心に約140ヶ国8000の企業・団体が加盟しています。日本では2001年にキッコーマン (株) が参加して以来、144の企業・団体が参加しているそうです。その「原則7」は「企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し」です。朝日新聞も参加しているのですが、電力会社や携帯企業は参加していません。

⑧2000年のミレニアム (千年王国) 年に関連して、キリスト教徒の多いEU諸国で「予防原則」に関する動きが加速しました。EU委員会の議決、フランスの憲法などで、それと共に電磁波規制を強化する国々がEU諸国で増えました。

⑨このような流れの中で、2001年に「ISO理事会」は「ISO消費者政策委員会」に対して「CSRに関するISO規格の作成が可能かどうか」の検討を依頼し、「CSRではなくSR」としての具体案の作成が2005年から開始された結果が「ISO26000」です。世界最初の「社会的責任に関する国際規格」であることもあり、毎年開催される総会で激しい論争が展開されたそうです。2010年5月の第8回「コペンハーゲン総会」で最終案が決定されて投票に回され、9月12日に賛成多数で採決されたことを13日に発表したのです。過去最大の参加数を記録した第8回総会でもっとも揉めたのが「予防原則的アプローチ」の項目で、米国・カナダ・インドは「費用対効果」を導入して「リオ第15宣言の予防原則・思想」を薄めることを主張しましたが、結局、リオ宣言に下記の文章を追加することになりました。

「措置の費用対効果については、組織の短期的コストだけで

はなく、その措置の長期的コストと利益を考慮すべきである。」

それでも米国・インドは納得せずに、反対に回ったのです。

⑩採決直後の9月14日、「ISO26000」の成立を待っていたかのように、日本経団連は「企業行動憲章」の改定を発表しました。その序文には、

「近年、ISO26000に代表されるように、持続可能な社会の発展に向けて、あらゆる組織が自らの社会的責任を認識し、その責任を果たすべきであるとの考え方が国際的に広まっている。」

と書かれています。しかし、残念なことに環境に関しても最も重要な基本的思想である「予防原則的アプローチ」に関しては一言も触れられていません。

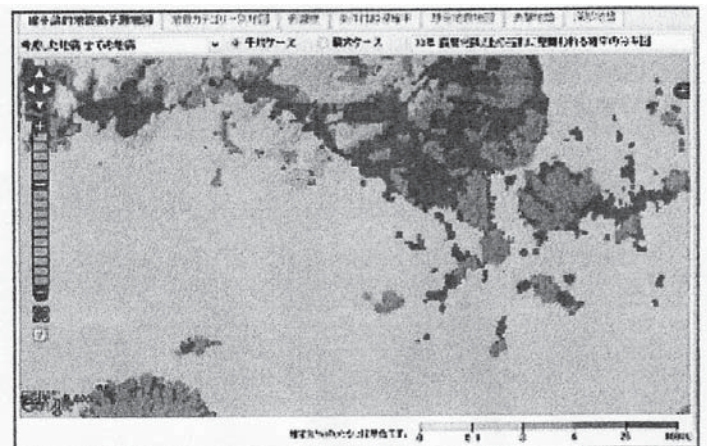
⑪「社会的責任に関する最初の国際規格」が出来たことは、歴史的にも重要な意味があると私は考えています。メディアは無視していますが、多くのステークホルダー (利害関係者)

が、10年近くも議論しながら、最終合意にたどり着いたからです。それにつけても、日本の「ISO/SR国内委員会」を構成するステークホルダーは、政府 (通産省など)・産業界 (日本経団連と多くの企業)・シンクタンク (三菱総研など)・大学/学会関係 (委員長が一橋大学・教授)・消費者 (主婦連など)・労働団体 (労働総連など)・NPO/NGO (CSO ネットワークなど) だそうですが、本当の意味でのステークホルダーとしての役割を果たしていたのだろうか・・・と心配になります。色々な議論がなされたことでしょうか、背景や経費も含めて、討論などの内容のすべてを公開して欲しいものです。それこそが「委員会」の果たすべき「社会的責任」ではないでしょうか?期待したいものです。(2010.12.15記)

「九州/中継塔裁判ニュース」より転載

「全国地震動予測地図」が地震調査研究推進本部地震調査委員会により公表されました。この情報は、「地震ハザードステーション」-SHIS」で誰でもWeb上で閲覧することができます。この予測地図によると長島ノ浦が今後30年以内に震度5強以上の揺れに見舞われる確率は26%以上、震度6弱以上の場合、確率は6%以上となっています。

本当にここが原発建設適地と言えるのでしょうか? (2009.7.25)



2・6日出生台 米海兵隊 実弾砲撃訓練 抗議集会報告



■東北関東大震災

集会の報告の前に今一番気になっていることを書かせてください。マグニチュード9の地震の後は大津波に襲われそして原発事故、被災者の方たちの日々を思うと体が震えて止まりません。地震津波は天災かもしれませんが。でも原発は人災です。原発を造ると判断した人たちの無責任の連鎖が、震災で辛うじて生き延びた人々を、今また命の危険にさらしているのです。二十数年前伊方原発の出力調整実験の時、子どもたちも連れて高松にある四国電力本社に抗議に行きました。

対応した社員（広報の人だったのかなあ）が、「原発の建屋は飛行機がぶつかっても壊れません、マグニチュード8の地震にもびくともしません」と胸を張って言ったと記憶しています。無責任な人たちの想像力は何とも貧弱なものだと思います。被災者に寄り添おうと動き出したグループがありますので紹介します。

○「宗教者9条の会・大分」（見成寺住職日野詢城さんが事務局長）
郵便振替口座番号 01720-1-11731 宗教者九条の会・大分
○「脱原発ネットワーク」ではカンパと空き家探し。

チェルノブイリ事故の時に子どもたちを受け入れて治療にあたった経験を生かして、100人規模で受け入れようとしています。「自分に出来ることを」が無理なく続けられる方法。

■2月6日 日出生台へ

2月6日、大分から貸切大型バスで見城寺へ。日出生台の闘いの話を聞き、日出生台に上がって演習場のゲート前での例年の抗議集会に参加しました。参加者の皆さんはみんな個性派ぞろい。でも同じ思いを抱いて各地、各自で活動する人たちがこうして全国から集まることは喜びであり、まるで同窓会のように楽しいですね。実は、私はスタッフとしてウロウロしていて、話をよく聞いていないので報告は書けません。藤井さんは完全に人選を間違えました。申し訳ないのですが、私の勝手な視点で書いていきます。

■抗議集会を支えるメンバー浦田龍次さんのこと

ローカルネット大分・日出生台を主催しています。日出生台の反基地闘争は浦田さんの理論と衛藤洋次さんの感性で支えられていると思っています。今回も、見成寺でプロジェクターを使って分かりやすく米軍砲撃訓練について話してく



れました。沖縄の国道104号線越えで行われていた155ミリリゅう弾砲の訓練が本土5カ所に分散され日出生台にも…7回目から小銃・機関銃などの小火

写真提供 小川さん

宮崎優子（赤とんぼの会）

器の使用を要求、米軍との間に結んでいた使用協定はなし崩しに…

浦田さんたちは監視小屋を作って、米軍の訓練を監視し続けています。砲弾の数も一発ずつ数えています。去年はマスコミも気付けなかった白リン弾の連射も撮影しています。あの非人道的兵器といわれる白リン弾です。撮影したからこそ、イスラエルがガザ地区に打ち込んだ白リン弾と同じものが日出生台で使われたことがわかりました。浦田さんは本土の米軍訓練は有事体制の訓練だと警告しています。沖縄では米軍自身で行っている武器弾薬兵士の輸送がこちらでは徹底した民間動員で行われているのです。チャーター機、貨物船、バス、すべて民間です。いままで武器に触れることもなかった人々が米軍の訓練があるたびに繰り返し触れることとなります。日出生台は110年余りにわたって演習場にされています。もうそろそろ変えるべき時期だと思えます、と言って浦田さんの話は終わりました。

■お守り袋を手渡しで 浦田さん

たちはお守り袋にメッセージを入れて米兵に手渡ししています。ビラは上官に回収されて返ってきてしまうので、お守りの中にメッセージを入れて渡すと信心深い彼らは大事にしてくれるそうです。



ローカルネット大分ホームページより

■衛藤洋次さんのこと

酪農家です。（監視小屋の前で話をしてくれました。）牛とともに暮らしています。衛藤さんは私たちに日出生台の暮らしを語ってくれます。日出生台の空



気の甘さ、風のおい、土、桜草、牛のこと、子どものかわいらしさ、毎日の暮らし、日出生台の歴史、洋次さんがどんなに日出生台を愛しているかが伝わってきます。そしておじいちゃんの時代から基地の中で暮らすみんなの思いを話すとき、洋次さんは泣きます。政治の身勝手さ、どんなに訴えても思いが届かない理不尽さ、悔しさで洋次さんは泣きます。松下竜一さんは「洋次さんを一人にしないために日出生台に来る」と言っていました。

■梶原得三郎さんのこと

草の根の会代表です。米軍が来るといつも「草の根の会」が呼びかけて抗議集会をひらきます。個々で動く私たちの拠り所です。梶原さんは、環境権裁判として知られる豊前火力発電所建設差止め訴訟の原告のひとりでした。（松下竜一さんの「暗闇の思想を」を読んでください）



あの時松下さんや梶原さんたちが訴えた「暗闇の思想を」が勝訴していたら、今福島原発事故で多くの命が危機に曝されることなど無かったはず。もし…と考えることは意味のないことなのではないでしょうか。

■毎年司会を担当する渡辺ひろ子さん

毎月2日基地前の座り込みを続けています。住民運動は義理と人情だというのが持論です。

松下竜一さんの遺影を抱いて立つ高井公生さん、脱原発の活動を続けてウン十年「上関に通っています。沖縄にもよく行きます。」仕事はしているのかな。

集会決議文を読み上げた中山田さつきさん、「上関」の海の民の突き抜けた明るさを話してくれます。福島原発の事故が起こって、中国電力は上関の工事一時中断を発表しました。でも現場は油断の出来ない状況だそうです。

シュプレヒコールをしたぶんぶんおばさんの島田雅美さん、差別を許さない鋭い感性で靖国合祀裁判など全国を飛び回っています。

まだまだ沢山の人の力で集会は成り立っています。大分市民連絡会の面々は二日間ぶつ通しで支えてくれました。そして今回大分の集会のスケジュール全般、宿泊、会場、バス、お弁当など細々したことまですべて手配して高田さん藤井さんとの連絡を引き受けてくれたのが、佐藤真紀子さんです。彼女は外電をいち早く翻訳して知らせてくれます。ジブチに自衛隊の基地が出来ると知ったのも彼女の情報です。外務省に電話して確認を取ったのも彼女です。こうして振り返ってみると大分のメンバーも面白いですね。

そして何よりも全国から大分日出生台へ集まってくれたみなさんありがとうございます。大きなエネルギー元気をもらいました。日出生台で切ないね、悔しいねと一緒に泣いてくれた方たちのこと忘れません。高田さん、藤井さん、ほんとうにありがとうございました！

第14回許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会

藤井純子

2月5日は、大分市コンパルホールで「沖縄・日出生台から日本のいまが見える」と題して「第14回許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会 in 大分&日出生台」を行いました。

第1部公開集会 プログラム

- ・日出生台のたたかいかから(映像) 梶原得三郎さん(草の根の会)
- ・14回全国交流集会基調報告 高田 健さん(市民連絡会)
- ・記念講演「沖縄から見た平和憲法、日米安保」高良鉄美さん

各地の運動から

- ・平和といのちをみつめる会(築城基地) 渡辺ひろ子さん
 - ・ピースリンク広島・呉・岩国(岩国市議員) 田村順玄さん
 - ・とめよう改憲！大阪ネットワーク 中北龍太郎さん
- 松下竜一さんの映像、彼を支え、一緒に活動してこられた梶原さんのお話しは、皆さんの心に響き、共に松下さんの遺志を受け継ごうと思われたのではないのでしょうか。

第2部 各地の様々な活動報

時間は5分と短いのですが、あの運動いいね、どうして実現したんだろうと興味深く、とりわけ東京の9条祭りは、私たちもできたらいいなあ… 福岡の脇義重さんも、佐賀の豊島耕一さんも、広島からも5人が発言しました。藤井が上関原発建設の予定地の美しさ、反対の闘いを映し出し、田ノ浦を守っていることを報告しました。新田秀樹さんが呉海自の海外派遣、合同演習の動き、ピースサイクルの日出生台との交流、上山耕平さんが若者の発言、久野成章さんが広島のアリソンなど秋葉市政と市民運動について、大月純子さんは、高江の沖縄防衛の工事強行と住民の闘いを報告しました。

今回、大分・日出生台集会は、本当に大分の方々にはお世話になりました。日出生台の方たちは、2月7日、本格演習にむけて闘いをしながらの準備で大変な負担となるだろうと思いましたが、全国の皆さんにぜひ知ってほしいと思ったのです。公開集会では、言いだしっぺとして開会のあいさつと進行を受け持ちましたが、松下さんの映像を見て涙が止まらず、高田さんの基調講演をすっ飛ばしそうになりました。またまた失敗！ですが、宮崎さんが書かれているように厳しい闘いの中で精いっぱい戦っている人たちと楽しく交流できて、高良先生も参加者のみなさんも、楽しく、元気になったねと言われていました。それは宮崎さん、佐藤さんをはじめ大分の方々の温かい受け入れがあったからこそです。

私たちが今回確認したことは、①沖縄の負担の軽減と称して県道104号線越え実弾砲撃演習の本土分散移転とされたこの演習は、米軍が勝手に拡大し、米海兵隊に非常に都合のよい「分散移転」になっていること、②日出生台演習場は、旧日本軍以来120年近く使われ続け、住民にとっては生まれる前から砲弾演習の中で暮らしてきたところであるということ、③浦田さん、洋次さんをはじめ、地元で粘り強い住民運動が続けられていることなどなど… 私たちはあらためて、岩国基地の拡張強化を抗議し、愛宕山の米軍基地化をさせないよう、沖縄、日出生台、全国の同じ思いの人々と共に日米安保体制を問い直し、「基地はいらない、どこにも」の声を強めようと思っています。大分の皆さん、本当に有難うございました。

広島の新田さん

福岡の脇さん

久野さん



米軍再編計画に翻弄される岩国基地～愛宕山に米軍住宅はいらない!～

田村順玄（岩国市議会議員）



こんにちは。岩国からやってまいりました。ちょうどこの大分の海向いの反対側に岩国があり、晴れた日には、大雨が降った次の日などにはこちら側が見えるような気がします。近くには上関原発の

現場があります。広島から約40キロしか離れていません。

岩国基地、アメリカ海兵隊の基地です。私は1945年8月12日に中国で生まれて、その後、岩国に came ました。私の年齢と一緒に岩国基地が君臨してきた町に住んでいます。

私は「追跡在日米軍リムピース」というホームページを、基地のある町の市会議員5～6人で10数年前に立ち上げまして、おりのりの岩国基地の状況をほとんどUPしております。

岩国基地は、海兵隊の基地です。岩国には井原勝介さんという市長がいました。さんざん国にアメとムチでいじめられまして、3年前にとうとう辞職してしまいました。防衛省に49億円という補助金をもらって100億円の市庁舎をつくるということがありました。市長自らが住民投票条例を提起して、自分から発議をして、国が厚木からの空母艦載機59機を岩国に持って来るという提案に最後まで反対しつづけて、最後は住民投票を行って、圧倒的な多数の市民が艦載機の移転は反対だということになり、その住民投票は成功しました。しかし、そのわずか1週間後「平成の大合併」とで、その住民投票の結果も全て消えてしまいました。その後、その年の暮れに庁舎の補助金35億円（その前に14億円もらっていました）を国が出さないということで、とうとう行き詰まり、辞職をしました。その後の選挙は勝つ予定でしたが、わずか1782票の差で負けてしまいました。井原さんが退陣したあと今の市長になって1週間後には35億円を国がさっさとくれました。日常的な行政経費は再編交付金という、再編を受け入れるという意志を示した新しい市長のもとで、着々と出し、あらゆる事業が順調に進んでいます。来年1月12日に新しい市長の下で初めての選挙がありますが、井原さんは大変厳しいところです。井原さんの妻が私たちの地域では初めての女性議員になるんだと頑張っています。草の根の市民もこの選挙を闘っているという状況です。

日本政府は今年の政権交代に際して、さんざん米軍再編は見直しだと打ち上げていまして、われわれも応援したわけですが、

政権が変わったら北沢防衛大臣も、見直しどころかさっさと「岩国基地見直しは、旧政権が提案していたものをもう一回見直したら正しかった、だからその通りやります」と、そういう政策をすすめています。

既に岩国基地には2500億円かけて、思いやり予算で滑走路を1000メートル、沖合いに出しました。そして今年の5月29日に、新しい滑走路の運用をはじめました。厚木からの艦載機がくるために、毎年6700億円の再編経費という予算がついて、基地の中には再編になった場合の新しい施設がドンドンできています。戦前にできた海軍の飛行場を使っていた海兵隊は、その思いやり予算で新しく1.4倍に広がった基地の中に、全ての施設をリフォームして、配置換えをして、新しく全部入れ替えています。岩国基地ではそういうことが進んでいます。合計約4000億円、岩国基地に投入するということになっていまして、岩国には岩国以外の町の土建屋さんが殺到しています。毎年6700億円の予算が入ってくるのですから、ゼネコンや基地に絡む業者にとっては非常においしい話で、これがドンドン進んでいます。艦載機がくるという話とパッケージの米軍再編の事業の話がすすんでいる。国は59機を岩国に持ってくるので狭くなる、岩国に迷惑をかける、だから岩国の海上自衛隊の17機を厚木に移す、それが思いやりですと提案してきた。すると岩国市民は市長も、議会をあげて、それだけはやめてくれ、築城の皆さんの自衛隊に対する闘いがありますが、岩国では自衛隊はいてくれ、米軍が来るのはカネにならないが自衛隊約3000人が岩国にいることはしっかりお金を落とす、だから岩国にいてもいいんだ、こういうような構図になってしまっています。

今日の話の中心ですが、私の自宅がある愛宕山という、約100ヘクタールのなだらかな丘があります。それが123年前から、岩国基地の沖合移設事業の工事のために約2000万立方メートルの土砂が要るのでそれを削り取って、跡地に5600人が住める町をつくる計画をした。そして約800億円の予算を使って、全部借金ですが、その山を切り開いて土を海へ出して、基地を拡張して、跡地にきれいな住宅地をつくることにした。その土砂だけ出し終わった時点で、バブルがはじけました。跡地はもう誰も買わないだろうということで住宅計画をやめ、その跡地を、厚木からくる艦載機の米兵の家族のための住宅地をつくるという提案をしてきました。まさにわれわれを騙して、全くちがった方向に使われることになってしまったのです。

私たちはなんとかこの計画をやめさせなければならないということで、「愛宕山を守る会」をつくりました。私はその愛宕山の

5月5日 岩国基地の開放デー

ピースリンクは、10時からゲート前でチラシを配布します。ご参加ください。



最

最近、5月29日にできた新滑走路の、誘導路にアレステイング・ギアという飛行機を強制的にワイアでとめる装置がついているのを見つけました。どういうことかということ、誘導路も滑走路に使うということです。新しい滑走路の両側に誘導路が2本できるのですが、岩国基地に59機増えて、海兵隊の飛行機と海上自衛隊の飛行機と、全部で130機の飛行機が2014年には岩国基地にそろふ。ということは大変煩雑になり、幅そうするということです。滑走路で事故でもあれば、空に飛んでいる飛行機が降りられなくなり、そういう時にどこで降りるかと言えば、誘導路を使うのです。厚木からくる艦載機、空母が出る前にはNLP（夜間離発着訓練）をしています。しかし、2年前に政府はNLPの場所を硫黄島からどこかに変えると言っていました、いまだに発表していません。2014年に艦載機が岩国に来たときに、もう訓練する場所がなくなる。空母は出さなくてはならない。5000人の兵士が乗っている空母は1日、延ばせば大変なことになる。そういうときに誘導路を使ってNLPをやることもあり得るのです。いまの岩国基地はわれわれの手が届かないところで、どんどん既成事実として新たな運用が始まっています。沖縄で辺野古に新しい滑走路を造る計画がありますが、岩国の沖合でやったそのままの図面をあてはめています。水深13メートルの岸壁もできましたが、辺野古も弾薬庫も、米軍は日本政府のお金を使って、どんどん、機能的な施設を造っていかようとしています。そういうことが集約された基地が岩国ではないかと思えます。戦後65年経って、世界でも、滑走路、格納庫、監視塔などを新設した新しい基地を造ったというのは岩国以外にないと思えます。

昨年9月7日、私の近くに住んでいた「愛宕山を守る会」のメンバーが、防衛副大臣が岩国に来て愛宕山の住宅計画を説明しに来たその日の朝、岩国基地の米兵軍属が起こした交通事故で殺されてしまいました。4000人もの米兵が新たに岩国にきたら、そういうことが日常的に起こるということを予言させるような事件でした。

全国の多くの人びとにも関心を持って頂いて、岩国基地の機能強化を阻止していきたいと思えます。

許すな！憲法改悪市民連絡会「私と憲法」2月号より

団地に住んでいるのですが、3年前からこの取り組みを進めています。去年の8月21日から、午前10時から12時まで月に3回、「愛宕山見守りのつどい」、1の日、1日、11日、21日に座り込みをやっています。毎回、50人から70人くらいの方が参加します。うれしいことに、この座り込みには地元のお年寄りや主婦や市民が毎回、20人から25人が出てくれます。この地域に私たちは「愛宕山に米軍住宅はいりません」という黄色いのぼりを約500本立てて、家庭の玄関には「米軍住宅はいりません」というステッカーを5000枚つくってはりました。おいでになったらわかりますが、周辺の部落に入ったら、一目見たら2~30本の旗が見えます。1年で色がさめるので、すでに3回、立て直しました。なかなか岩国のことを全国に広めるというのは難しく、住民投票のときは全国からマスコミがきましたが、愛宕山でそういうことが起こっているということは、ローカルな話で全く全国の皆さんはご存じありません。

愛 宕山を山口県住宅供給公社と岩国市が共同で住宅開発をやり、国から約400億円の土砂代をもらって団地を造ったのですが、途中でやめてしまいましたので、あとできた土地を分譲し、そのお金で愛宕山を整理する予定だったのですが、250億円の借金ができました。銀行で借れたカネなので、毎日毎日、1日約100万円の利子が付きます。県知事は、1日100万円の利子が付くから、早く防衛省に売って、米軍住宅にしてもらえば借金も全て棒引きになるからいいじゃないかと言って県民世論を盛り上げています。私たちにとっては、こんな提案納得ができません。昨年9月に国が提案してきたのは、「売る対象の用地約45ヘクタールのうちの15ヘクタールに米兵のためのスポーツ施設、野球場、トラック、サッカー場、体育館を造る。そのエリアは身分証明書がなくても使える市民の便民施設にしますので、許して下さい、残りの30ヘクタールは将校用に270戸建てる、本当は1100戸くらい要なのですが、残りの900戸は基地の中のゴルフ場をつぶして兵士の宿舎を造る、だから高級将校の住宅ですから、上品ですから大丈夫です。」こういう提案でした。私たちは、そういう思いやり予算で米兵のためにスポーツ施設を造る必要はないといって、裁判に訴えています。

4 つの裁判を起こしましたが、1つは終わり、3つの裁判が進んでいます。私は「沖合移設事業の埋め立てを無効にせよ」という裁判の原告団長です。また、「愛宕山の新住宅市街地開拓事業をやめたこと、もともとの事業をやいなさい」という裁判と、もう一つは、爆音訴訟です。その3つの裁判の口頭弁論が続いています。

愛宕山で1の日に座り込みをしています。午後には岩国基地のフィールドワークをして案内します、夕方には帰れますので、ぜひ岩国においで下さい。

世界社会フォーラムダカール参加報告

渡田正弘(グローバリゼーションを問う広島ネットワーク)



西アフリカのセネガル(ダカール)で開催された世界社会フォーラムに参加しました。4年ぶり、しかもチュニジアやエジプトで民衆革命が起きている最中のアフリカ訪問で、とても意義深いものでした。セネガルはフランスの植民地であったので公用語はフランス語。しかもムスリムの国。イギリスの植民地であった東アフリカのケニアとは雰囲気は違っていました。セミナー・会議・デモ等のイベントは大規模ではなかったが、今も“新植民地主義”により収奪の対象とされているアフリカで民衆レベルの地殻変動が静かに進行していると感じられました。

1、概要

期間:2011年2月6日~11日

場所:セネガルの首都ダカールにあるダカール大学キャンパス

参加者:参加者数は数万人? 西アフリカ諸国からの参加者が多い。欧州からはフランスが多い。日本からは約30人。

テーマ:植民地主義、債務帳消し、気候正義、食糧主権、金融経済危機など

2、参加日誌

初日(2月6日)

午前中にタクシーで会場のダカール大学まで行き、登録を済ませる。毎度のことだが、プログラムは印刷が間に合わず。2時から静かなデモ行進がスタート。私たちATTAC Japanグループは、世界から集まったATTACグループの先頭に横断幕を持って参加。私が持って歩いた日本語の上関原発反対の幟やパネルが珍しいので、幾人かが意味を聞いてきて写真に収めていた。沿道では子どもたちを含む市民や大学の寮生が物珍しそうに見物。アフリカ唯一の未独立地域「西サハラ」(モロッコによる実質的支配下)のグループも元気にアピールして行進。しかし、どこもかしこも砂埃が目立つ。ダカールは砂の上にできた街かな? 行進には数千人の参加者。地元TVニュースでもWSFが報道されていた。

2日目(2月7日)

朝、タクシーで大学へ。関係者からの情報をもとにセミナー会場探し。なんと会場の大学は通常通りの授業の真っ最中! 堂々巡りの後にやっと見つけて参加。アフリカの50年(1960年代の独立後50年経過)がメインテーマ。チュニジアやモロッコからの民衆革命に関連した動きの報告、マリ元気な女性からのアピール。ブルキナファソを初めとするアフリカの優れたリーダーの発言。フランス語が分からない私たち(少数派)にはカナダ人が英語に通訳してくれた。

夕方から、世界のATTACメンバーが集まる会場へ。約100人

集合。民衆革命を担ってきたチュニジアのメンバーの登場に大きな拍手。ルムンバとサンカラの名前が頻繁に出ていた。コンゴの女性が元気。各国から自己紹介し、皆でしばし交流の時間を持った。

3日目(2月8日)

午前中は、「気候温暖化」のセミナーで、ビア・カンペシーナ(世界規模の農民グループ)の連中やジュビリー(債務帳消し運動)の連中が発言していた。また、ニジェール人がウラン鉱山の被曝問題にも触れていた。ボリビアやアフリカの女性の活発な発言が印象的。気候温暖化に関するカンクン(メキシコ)でのCOP16会議の結果を踏まえ意見交換が行われた。あとはエリック・トゥーサンの債務問題セミナーへの途中参加。

4日目(2月9日)

午前中、世界遺産である一奴隷貿易の拠点だった島「ゴレ島」に行く。ダカール港から15分くらいで到着。セネガル人の英語ガイドを雇う。彼の弟が日本在住十数年の日本びいき。砲台跡などのある丘はさながら芸術村。砂絵などの創作に励む連中がたくさん住み着いている様子。きれいな砂絵の土産を買う。奴隷貿易で売り飛ばされる人々が閉じ込められた砦跡の博物館を見学。ここから主にアメリカに売られていったとか。数百年前の悲しい歴史を思うと複雑な気持ち。港に戻ってからは、多くの露天商が集まるにぎやかな市内中心地のサンダカ市場を見学。とても活気があり、治安は悪くない感じ。

5日目(2月10日)

朝から社会運動セミナーに参加。約300人が参加。メインスピーカーはATTACチュニジアのメンバー。「ジャスミン革命」についての報告に参加者全員が立ち上がり拍手。それからサミール・アミン、ビア・カンペシーナ、ラテンアメリカの各国(ボリビア、アルゼンチン、メキシコ、ブラジル)などからスピーチがあった。アフリカの若者からの発言もあってにぎやか。アフリカの現状は厳しいが社会変革はやればできるという自信をチュニジア、エジプトの状況から得ているのでは。特にラテン系の女性のスピーチはパワフル。社会運動のあり方を展望する内容であった。



上関原発建設準備工事を中国電力は一時ストップ

今回の福島原発事故後、山口県、上関町長が慎重な対応を要請し、中電は準備工事を一時ストップすると発表しました。しかしあくまで一時中断であり、調査は今なお続いています。山口県からも、私たちも申し入れに行きましたが、一時中断は、感情的になっている地元の理解を求めるためで中止ではないと言い続けています。それにしても2月21日からのすざまじい工事強行には怒りがこみ上げます。



写真提供 岡原さん



上関原発止めよう！広島ネットワークは広島の中電本社に田ノ浦の強引なやり方に対して2度の申し入れをしました。



海は台船がそこまで来て、中電の警戒船と海上保安庁、推進派の漁船が祝島の漁船やカヤッカーの動きを封じ込め、陸は警備員がスクラムを組んで作業員の周りを固め、こちらも身動きができない状況。

2011・2・23 (水) 田ノ浦にけが人

政木和美さんの日記より

- 14:54 海で海保のゴムボートが動き回っている。中電が反対する人たちを入れまいとオイルフェンスを設置するという。誰の海だと思っているのだと怒りがこみ上げる。
- 15:20 プレハブから中電の社員がマイクを持って出てくる。鉄パイプを持った作業員、2・3人1組で2組、浜辺に下りてくる。警備員の数も増えるが中電の社員は浜には降りてこない。
- 15:32 警備員の塊の中に誰かが倒れているという声に思わずそちらを見る。女性は倒れたままだ。このような悲惨な出来事が起きているというのに、作業員が、鉄パイプを浜辺に打とうとして揉み合いになった。こちらが手薄なところは2本、波打ち際にくいを打ち込まれてしまった。しかしガンと動かず守りきったところは打つことができなかった。
- 15:50 浜の上の中電の社員から「作業中止！」の声がかかる。警備員、作業員一斉に引き上げる。すばやい反応だ。近くにいた人たちの抗議にもかかわらず、中電の社員はプレハブの中に入り、私たちの目の前でカーテンまでして出てこようとしない。自分たちは一切手を出さず、責任は、下請けの警備員、作業員にありということなのだろうか。しかし、私は、はっきりこの耳で聞いた。中電の社員の「作業中止！」という指令で警備員、作業員は動いたのだから、一切の責任は、中電にある。
- 16:08 船で医師到着。すぐに倒れた女性の診察が始まる。2・3人の男性に、のっかかられたという。心配だ。
- 16:23 やっと担架を持って警察が数人がやってきた。
医師は携帯で受け入れの病院の手配をしている。そこは今満床という病院とのやり取りが聞こえる。
- 16:25 浜から、海保のゴムボートに向かって、救助を要請する。
- 16:34 私たちの激しい抗議の声にやっと接岸し、担架を船まで運び、病院に搬送される。
- 16:50 女性が倒れてから中電側はプレハブから出てこず、一切誠意ある対応をしなかった。

29年間ずっとこのような仕打ちをしてきたのではないか。地元の合意という大前提すら怠って、力でねじ伏せようとする傲慢な一企業の存在が許されるという日本の社会のありようについて考えさせられる今日の出来事だった。

電力の供給を独占し、地域に君臨する電力会社。その金力と権力に癒着もたれあう利権構造にどっぷり浸かった政治家・官僚・司法関係者たち。しかし、この無謀な計画は、絶対進めさせてはならないとの思いをさらに深めた今日の田ノ浦だった。

2011 第九条の会ヒロシマ総会 報告

藤井純子 事務局

3月21日春分の日、第九条の会ヒロシマ総会を行いました。岡本三夫世話人代表のあいさつと東北関東地震の被災者の人々に寄り添いたいと黙とうにはじまりました。本年度の方針、活動計画、体制など確認しました。とりわけ、8・6新聞意見広告のために市民運動としては大きなお金が動くので佐々木さんから会計報告、赤木さんから監査報告をして頂きました。

2010 年度活動報告

主な活動

- 4月10日 コリン・コバヤシ講演会
- 5月3日 5・3憲法記念日リレートーク シール投票
- 8月6日 8・6新聞意見広告
- 7日 上映会「シロタ家の20世紀」と藤原智子監督のお話
- 11月3日 広島県9条の会ネットワーク憲法講演会 高良鉄美さん
- 2月5~6日 許すな！憲法改悪・市民運動全国交流集会
・会報、65、66、67、68号発行 ・世話人会18回 ほか

2011 年の活動

①活動方針

- 1、一人でも多くの市民に、憲法の3原則、人権・民主主義・9条の大切さを知ってもらうよう活動する。
- 2、主権者力を高め、改憲に反対し、憲法尊重の世論づくりのために活動する。
- 3、様々な課題を共有し、政治的、思想的立場にこだわらず、幅広い協力・結集を目指す。

②活動計画

- 1、2011年8・6新聞意見広告に取り組む。
- 2、5・3憲法記念日のリレートーク、シール投票、他、市民に訴える。
- 3、憲法審査会の始動、実質改憲となる危険な動きを注視し、改憲を阻むため、全国的な連携を強める。
- 4、憲法のネットワーク、核兵器廃絶、基地、上関原発問題など平和・人権を守る幅広い活動に積極的に協力する。
・広島県9条の会ネットワーク、・許すな！憲法改悪市民連絡会、
・上関原発止めよう！広島ネットワーク、・核兵器廃絶をめざすヒロシマの会、
・ピースリンク広島・呉・岩国 ほか

主な活動予定

- 3月21日(月) 総会 ミニ講演会(石口俊一弁護士)
- 5月3日(火) 5・3憲法記念日リレートーク
- 6月11日予定 会報+チラシ発送、8・6新聞意見広告本通り街宣
- 8月6日(土) 8・6新聞意見広告
- 11月 憲法講演会(広島県9条の会ネットワーク) 未定
ほか会報 ・世話人会

③2011年世話人(敬称略)

代表世話人：岡本三夫 副代表：横原由紀夫

世話人：石口俊一、上山耕平◎、岡本珠代◎、木原省治、栗原君子、後藤正史、佐々木孝◎、島村真知子◎、実国義範(県北)、利元克巳、土井桂子、西浦紘子◎、馬場浩太、宮地靖子、盛谷祐三、藤井純子◎

☆新 上羽場隆弘 三原地域

会計監査：赤木弘子 河野布美子

この2011総会に参加して下さった会員の方々は、9条だけではなく、人権獲得のために様々な活動をされています。それぞれの様々な活動の報告をして頂きました。

豊永恵三郎さんは、「被爆証言をする時には子どもたちに必ず9条の話をする。台湾にも被爆者協会が必要であることや、在外被爆者も国内に住む人と同様に安心して医療が受けられるようにするために事例ごとに裁判を起こさねばならず、被爆者はどこにいても補償されるべき。急がなければならないと力説されました。

青木克明さんは、「集団訴訟で勝訴し内部被曝を認め認定基準が新しくなっても被爆者認定の割合が下がった事例も多く、今後打ち破らねばならない、また、在外被爆者のネットワークを再結成すること、アスベストによる二重の苦しみを負わされた被爆者がいる」など多くの課題があり取り組んでいくと話されました。医師として、またHANWAでも上関原発ネットでも共同代表として頑張ってください、感謝しています。

利元克巳さんは、TPPが根本的に日本の経済、暮らしを変えてしまうこと、防衛大綱が民主党のもとで大きく危険な方向に舵を切ったことは大問題、広島での防衛大綱シンポジウムを広島県、県教委、中国新聞が後援をしているために抗議の声を上げたこと、国会の比例定数の削減、憲法審査会のことなど多岐にわたって話してくださいました。

実国義範さんは、8・6新聞意見広告、上関原発、岩国基地問題など様々な県北の人々につなぎ広めてくださっています。9条の会の三次ネットワークや強制連行など幅広い多くの課題をかかえて活動されています。5月には、三次で「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会をされるそうです。

木原省治さんには、福島原発事故緊急報告で、福島原発の歴史や、放射線などの数字マジック、プルサーマルを隠すなど、政府、東電、報道の問題点を話してください、今後、被曝についての危険性、人々の不安など、ヒロシマの役割は多いと結ばれました。参加者からのいろいろな質問もたくさん出ましたが、どれも丁寧にご答えくださいました。

西浦紘子さんが資料を挟んで下さった「岩国基地の拡張強化を許さない！広島西部住民の会」の廿日市市議の公開質問状の集計報告をして頂きたかったのですが、時間がなくて、残念。

石口弁護士に「スラップ訴訟」についてのミニ講演をして頂きました。とてつもない損害賠償を請求する運動つづしの裁判を起こすことは、司法テロだとも言われていました。アメリカのカリフォルニアでは、そういう不当な裁判を起こさせないよう法律ができています。この日の参加者には、上関原発止めよう！広島ネットの多くのメンバーが、中電が5つもスラップ訴訟をしていることに納得ができず、参加してくださいました。上関原発建設のための埋立工事をやむにやまれぬ気持ちで止めようという生活をかけた必死の抗議行動を妨害だと訴えられています。払えるはずもない莫大な額の損害賠償は、まさに司法テロかもしれません。

埋立、原発建設、ごみ処理、マンションの建設などを止めようとする行為は多くの人々にとっても大変有益なことであり、反対する行為は正当なものです。日本でもスラップ裁判を認めない法律を作る運動、また係争中の裁判であっても、そもそもその提訴自体が間違っていることを裁判の中で追及して、不当を明らかにしていくことができるのではないかとということも話し合いました。

参加された多くの皆さんが発言してくださいました。総会参加者だけでも第九条の会ヒロシマは素晴らしい呼びかけ人、世話人ばかりで、なんと贅沢なことでしょうか。最後は、栗原君子さんがきちんとまとめて下さり、学ぶことが多く充実した総会になりました。広島YWCAの宮地さんは場所の提供だけではなく、おいしい紅茶を用意して温かい雰囲気を作り出してください、今年も頑張っていこうと決意を新たにしました。皆さん 今年一年、どうぞよろしくお願ひ致します。

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前 期 繰 越 金	628,155	支 出 合 計	5,448,225
内 訳		文 書 費	366,644
現 金	11,894	通 信 費	572,894
普 通 預 金	601,261	行 事 費	36,040
振 替 口 座	15,000	旅 費 交 通 費	84,220
入 金 合 計	5,086,200	人 件 費	330,000
内 訳		会 報 編 集 費	100,000
意 見 広 告 賛 同 金	3,072,100	事 務 費 (消 耗 品 費)	35,309
会 費	1,230,000	外 部 会 費 ・ カ ン パ	39,240
カ ン パ	578,600	雑 費	77,415
上 関 原 発 止 め よ う 参 加 金	16,000	新 聞 意 見 広 告 費	3,600,963
祝 島 島 民 の 会 カ ン パ	189,500	上 関 原 発 止 め よ う 参 加 金	16,000
雑 収 入	46,424	祝 島 島 民 の 会 カ ン パ	189,500
		次 期 繰 越 金	312,554
		現 金	0
		普 通 預 金	238,554
		振 替 口 座	74,000
合 計	5,760,779	合 計	5,760,779

2010年度 会計監査報告

2010年度会計につき、2011年3月17日(木)に監査を行った結果、帳簿、通帳類のすべてが適正に処理、保管され、正確に記載されていたことを報告いたします。
2011年3月17日

会計報告 会計から(佐々木孝)
会費は、前年をやや上回りホツとしてます。しかし8・6新聞意見広告の賛同金は意見広告費を下回り、次期繰越金が減少する結果となりました。意見広告の賛同者をさらに広げていくことが課題です。

会計監査
赤木弘子
金子留里



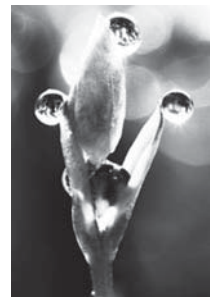
活動記録

2011年

- 1月 7日 第九条の会ヒロシマ会報69号発送 広島市民交流プラザ
- 8日 市民運動新春合宿2011 広島市民交流プラザ
- 15日 上関原発止めよう!広島ネットワーク本通り街宣
岩国基地拡張強化を許さない!広島西部住民の会講演(前田哲夫さん)
市民運動新春合宿2011 広島市民交流プラザ
- 19日 上関原発止めよう!広島ネットワーク中電前行動
- 23日 上関原発止めよう!広島ネットワーク世話人会
- 25日 広島県9条の会ネットワーク定例会 資料館会議室2
- 30日 「自然エネルギーの可能性」飯田哲也講演会 上関ネット
- 2月 2日 第九条の会ヒロシマ世話人会 岡本平和研
- 5~6日 許すな!憲法改悪全国交流集会大分日出生台 広島9人参加
- 10日 オリンピックはいらない市民ネット 広島市民交流プラザ
- 11日 2・11建国記念日を問う広島集会 カトリック会館
- 15日 第九条の会ヒロシマ事務局会 五日市カスト
- 16日 上関原発止めよう!広島ネットワーク中電前行動
- 18日 上映会 「弁護士布施辰治」西区民文化センター
- 19日 子どもと貧困弁護士九条の会 浅井講演会
- 21日~ 上関田ノ浦中電埋め立て工事強行 現地抗議行動
- 22日 教科書問題広島ネットワークは広島県・広島市教委に申し入れ
- 23日 上関原発止めよう!広島ネット埋め立て工事強行 中電本社に申し入れ
- 25日 上関原発止めよう!広島ネットワーク本通り街宣
- 3月 1日 上関原発止めよう!広島ネット 中電本社に申し入れ2
- 3日 広島県9条の会ネットワーク定例会
- 5日 教科書問題広島ネットワーク総会、記念講演会
- 9日 第九条の会ヒロシマ世話人会 岡本平和研
- 10日 防衛大綱広島シンガポ、市、中国新聞の後援に申し入れ
- 15日 上関原発止めよう!広島ネットワーク中電への申し入れ
- 16日 上関原発止めよう!広島ネットワーク中電前行動
- 21日 第九条の会ヒロシマ総会 広島YWCA

田ノ浦工事を止めよう

「愛は勝つ」にのせて
山本紀久代さんが替え歌を
作って下さいました。



写真提供 内海隆男さん



心配ないからね あなたの想い
彼らに届く 明日がきっと来る
どんなに困難で くじけそうでも
続けることを決してやめないで

Carry on, carry out

田ノ浦の海を 美しい海を
守り抜く日まで力をあわせよう
祝島の願いはみんなの願い
中電のやり方に涙するたび

願い新たにぼくらはやってきた

どんなに困難でくじけそうでも
信じることさ 必ず最後に愛は勝つ
申し入れすれ違い語りかけ食い違い
28年間 oh, 長ければ長いほど
勝ち取る喜びはきっと大きいだろう
心配ないからね 僕らの想い
彼らに届く 明日はきっと来る
どんなに困難で くじけそうでも
信じることさ 必ず最後に愛は勝つ
続けることさ この願い届く日まで

繩米軍の実弾砲撃訓練に合

米軍訓練
2011

平和侵害を指摘
琉球大教授が講演

沖繩基
地問題

日出生台演習場での在沖
わせて、公開講演会「沖繩
・日出生台から日本のいま
が見える」が5日、大分市
のコンパルホールであつた。
琉球大学法科大学院の
高良鉄美教授(憲法学)が、
米軍基地が集中する沖繩の
負担軽減のためにと日出生



講演する高良鉄美教授

台など全国5カ所に訓練が
分散された現状を踏まえ
「沖繩の問題は国民全員の
問題でもある」と訴えた。
県内外から約80人が聴

講演後、日出生台での米

講。高良教授は「沖繩からみた平和憲法、日米安保」と題し、「戦闘機の墜落事故や爆音被害など沖繩県民は平和侵害を五感で感じている。憲法は、国民が平和に豊かに生活する権利を保障している。沖繩を捨てる石のな立場に置いてはならない」と話した。
講演会は「第14回許すな/憲法改悪・市民運動全国交流集会 in 大分&日出生台」実行委員会が開いた。
軍訓練に関して「日出生台などへの訓練移転後も沖繩の負担は全く軽減されていない」と指摘。日米安保については「日本ではなく、米国の安全保障のために日本が利用されているだけだ」として、日米安保解消に向け、アジア諸国などとも交流を深める多角的な外交の必要性を訴えた。

大分合同新聞 (第) 2/6

お知らせ

九条の会・はつかいち

◆憲法 変える? 変えない? シール投票

4月30日(土) 10:00-11:30

場所:宮島口棧橋

主催:九条の会・はつかいち

連絡先:090-3373-5083(新田)

◆生きることと憲法

5月14日(土) 14:00-16:00

場所:阿品公民館(廿日市市)(JR阿品駅裏)

資料代:500円

講師:二見伸吾さん(しづく工房・県ネット事務局)

主催:九条の会・はつかいち

連絡先:090-3373-5083(新田)

■「2011年度岡本非暴力平和研究所総会

5月15日(日) 2:00-4:00pm

国際会議場3階研修室2

プログラム 活動報告 会計報告 講演

講師 田中利幸広島市立大学広島平和研究所教授

「原爆と原発 - 迫られる日本の反核運動再検討 -」

問合先 090-4805-1747(岡本)

e-mail: okamoto@shudo-u.ac.jp

■「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

5月15日(日)・1回目10:00-・2回目13:30-・3回目14:20-
三次ふれあい会館 三次市三次町1828-5(三次小学校前)

主催 「ミツバチの羽音と地球の回転」上映実行委員会

協力券 1000円(高校生以下無料)

連絡先 728-0003 三次市東河内町237 小武正教

?0824-63-8042

今年もやります! 8・6新聞意見広告

8月6日朝日新聞 大阪本社版15段、 東京都心版5段、山口全県版5段

かなり大変な計画ですが大事な時。頑張りますのでどうぞご協力ください。
呼びかけ人になって、チラシをまわりの知人、友人に、グループのみんなに
配るよと言って下さる方を募集しています。よろしくお願い致します。

みんなで作ろう!

タイトル・メッセージ募集中

タイトル 15字 4月末まで

メッセージ 30字 6月末まで

あなたの言葉、イラスト、川柳…
FAX・メール、振替用紙メッセージ欄に書
いてお寄せください。お待ちしております。

■カンムリウミスズメと上関(瀬戸内海)の生物多様性”

～ホットスポット 奇跡の海を守ろう～

4月10日(日) 10:00～17:00 国際会議場「ヒマワリ」

第一部 世界的な貴重種 カンムリウミスズメについて(10:00～12:00)

第二部 ウミスズメ類の調査と保全対策について～海外の事例から～
(13:00～15:15)

第三部 上関(瀬戸内海)の生物多様性とその保護について(15:30～16:15)

参加費 前売り1000円 当日1200円

主催 長島の自然を守る会

後援 日本生態学会・日本ベントス学会自然環境保全委員会・日本鳥学会
日本自然保護協会・WWFジャパン・日本環境法律家連盟・パタゴニア

協賛 LUSH

連絡先 TEL090-8995-8799 midori.t@crocus.ocn.ne.jp(高島美登里)

4月10日 九条の会・牛田 総会&講演 上関原発問題

4月23日 生協ひろしま9条を考える会 総会&講演 広島ロードビル

4月26日(火) 18:00～ チェルノブイリを忘れない キャンドルナイト 中電本社前

5月3日 憲法集会マイライフマイ憲法 13:30 県民文化センター

講演:加藤陽子「近現代史の課外授業」

憲法ミュージカル「閉塞の時代を生きる 石川啄木のメッセージ」

5月21日 渡辺治:講演「現代日本社会と労働組合運動の責務」

アークホテル14:30～16:30

会費のお願い

・2010年度、ご協力ご支援、ありがとうございました。2011年会費も既に
納入くださった方々、感謝です。今年度もよろしくお願い致します。

・祝島カンパをご入金くださった皆さん、ありがとうございました。会計
報告のように祝島島民の会に送りました。裁判費用、漁業をしない
で考動に漁船を出しておられます。喜んでくださることでしよう。

タイトル募集・8・6新聞意見広告の紙面づくりのために4月いつば
いにタイトル、6月末までにメッセージをお寄せください。5月に紙
面案を考えて、次号までに多くの皆さんに呼びかけるためのチラ
シを作ります。アイデアをお寄せください。よろしくお願い致します。

後記

・評論家丸山秀子の「一人の百歩より百人の一步」という言葉に、澤地久枝さんは「一歩前に出て行くのは不安で怖いと思う方は、半歩前に出ることを考えてみてください。」と言う。原発問題にしても基地問題にしても、半分の勇気が集まれば大きく変えられるのではと励まされた気がした。(に)
・今回は土井桂子さん、岡本珠代さんが入力してくださった。おかげでかねてより書いて頂きたかつた方に原稿のお願いができました。嬉しい。皆さんに支えられているわたし。
・「あっゴメン。今大変だから思いやり予算はなし、基地建設もダメ」って言うよ。今、ホントに。
・「どうしたら上関原発を止められますか?」という質問に対する小出裕章さんの答えは「一人一人が動くことでしか変えられない。自分が変わることからすべてが始まるのだと感じます」・・・
・竹原の松田さんの話を聞いて本気でやってみました。中間スイッチを使って待機電力を気をつけたら本当に使用量が少なくなった。信じられないくらい。皆さんもぜひ!!